

タイトル:平成 27(2015)年度 教育セミナー(第 11 回)

日時:平成 27 年 9 月 21 日(月・祝)～24 日(木)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究 3 階 マルチメディア会議室(304)

「アルジェリアの炭化水素政策の変遷－ 国営石油会社「Sonatrach」の政治的役割に着目して」

高橋 雅英 (上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科地域研究専攻 博士前期課程修了)

9 月 21 日から 24 日の 4 日間にわたって開催された「中東☆イスラーム教育セミナー」は、私にとって今後の研究の方向性を考える非常に貴重な機会になった。私は博士前期課程修了後、外務省専門分析員として情勢分析の業務に携わりながら、研究活動をおこなってきた。学生の立場を離れ、日々地域情勢を追っているなか、私は本セミナーで様々な専門地域やディシプリンを専門とする先生方の講義や受講生の方々による発表を通じて、多様な意見や議論を聞くことができた。また、マグリブ地域や現代中東政治に関する研究会への出席に偏りがちである私にとって、中東・イスラーム地域をこれまでと違った視点から観察する契機にもなった 4 日間であった。

最終日に行った私の発表では、アルジェリアの炭化水素産業に関する法制度や国営石油会社の役割を概観し、国家によるレント収入(資源輸出収入)最大化の試みや、レント収入の分配権をめぐる制度改革について考察した。炭化水素政策は一般的に、同産業に従事する実務者を対象に商業的な観点から議論されてきた。そのため、私は本発表の機会に学術的な視点から同政策を整理し、政権の体制基盤となるレント収入の創出活動に位置づけることで、アルジェリアを含む産油国全般の政治経済体制の実態を明らかにしたいと考えている。分析手法やディシプリン、またアルジェリアの事例選択の意義などに関して、先生方や受講生の皆さんからコメントやアドバイスを頂いたことで、今後の研究の課題をより明確にすることができた。発表の機会を頂いたことに改めて感謝を申し上げます。

本セミナーでは、これまで自分が所属してきた学内の研究会や学会では出会うことがなかった先生方や学生と知り合うことができ、またそれぞれの専門の時代や地域の違いをこえて情報交換することができた。最後に、こうした素晴らしい機会を提供してくださったスタッフの諸先生方や事務局の千葉さんに心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。